

変わる金融地図

日本経済新聞大阪本社経済部長
(前日経金融新聞編集長)

克部雅夫

これから金融地図がどう変わるか。それを予測するにはまず金融行政の方向を見極める必要があります。2004年度末を期限とする金融再生プログラムで示した大手銀行の不良債権比率半減目標はほぼ達成され、金融行政は基本スタンスを不良債権処理や金融システムの安定に配慮する危機対応型から競争重視型に転換します。

金融サービスを総合化

再生プログラムに続く新たな金融行政の指針として05年度から始まる金融改革プログラ

ムでは、大手金融機関に国際的な水準のサービスを提供できるような経営戦略を促しています。これは銀行、証券、保険などの垣根をなくし、金融サービスの総合化を進めることにほかなりません。

金融庁は銀行、証券、保険の業務を一手に担う金融コングロマリット企業実現に向けた法整備の検討に入っています。銀行の窓口では投資信託、年金保険に続き、04年12月から証券仲介業も解禁され、3年後には生保商品の窓口販売が全面解禁される方向です。金融代理店の規制も緩和され、銀行、証券、保険、信託がそれぞれの窓口で扱える商品が大幅に増える見通しです。スーパーや旅行会社などが銀行の代理店となり、預金やローンを扱うことも可能になります。

顧客にとってはワン・ストップ・ショッピング時代の到来となります。金融庁はこれまで後手に回っていた投資家保護策を強化するため、証券取引法を抜本改正し、06年に投資商品を幅広くカバーする投資サービス法の制定も目指しています。

元本保証のない金融商品をすべて投資商品とみなし、規制の網をかけます。これから登場する商品も含め、儲け話はすべて対象となります。預貯金に偏る個人金融資産を「貯蓄から投資へ」と誘導するための制度面でのイ

PROFILE

克部雅夫
ぎょうぶまさお



1978年日本経済新聞社入社、流通経済部、日経ベンチャー、経済部記者として産業・経済取材、99年日経マネー編集長、2002年日本経済新聞マネー&ライフ編集長、04年3月日経金融新聞編集長、05年3月から現職。

ンフラ整備が進む中で、金融機関の再編も加速します。

金融機関の選別が加速化

銀行はこの5、6年の間に大手16行がすでに7グループに再編され、メガバンクは今年10月の三菱東京・UFJ統合で3行になります。顧客基盤の拡大は顧客を囲い込み、多様な商品を売り込むのには有効です。消費者金融会社やカード会社との提携など、合従連衡は一段と進むでしょう。

今年4月にはペイオフが全面解禁となります。金融システムの安定で、ペイオフは発動しやすくなりました。ペイオフがこれまでのように「抜かずの宝刀」で終わる可能性は小さいかもしれません。たとえ中小金融機関でも、ペイオフ発動は一般の預金者に大きな衝撃を与え、金融機関の選別を加速します。07年4月には郵政公社が民営化されます。郵便貯金会社、郵便保険会社は民間金融機関には大きな脅威になりますが、販売チャネルとして活用すれば、資産運用業界にとってはビジネスチャンスにもなります。

証券業界も様変わります。自分で判断して株式投資をしたい個人はどんどんネット証券に流れます。楽天やライブドアもネット証券に参入、若い投資家層を開拓していくでしょう。楽天、松井証券はインターネットによる商品先物取引にも参入しました。一方、野村證券や日興コーディアル証券など大手は企業再生事業などを強化する構えです。伝統的な証券業務だけでは成長は見込めません。証券は収益源を多角化する総合証券、ネット証券に代表されるディスカウンター、新興株など専門特化型の3タイプに分化していくとの見方もあります。

金融改革プログラム 主な論点

- 国際性
 - ・金融市場の国際的な地位向上
- 利用者
 - ・投資サービス法の制定
 - ・金融サービス利用者相談室の設置
- 行政
 - ・組織・体制の総点検
 - ・行動ルールの策定
 - ・市場規律の活用と補完
- 金融機関
 - ・ペイオフ全面解禁の円滑な実施
 - ・市場型間接金融の発展、リスク管理の高度化による不良債権問題の再発防止
 - ・新規参入の促進、販売チャネルの多様化
 - ・郵政民営化への対応
 - ・中小・地域金融機関の経営力強化
- 地域
 - ・他省庁と連携した地域の再生・活性化
 - ・起業支援など中小企業金融の円滑化
- IT
 - ・電子資金決済や電子銀行取引に関する法整備

資産運用市場が主戦場に

今後は異業種企業の存在感も高まります。傘下にリテール証券、資産運用会社を持ち、証券仲介にも参入したトヨタ、金融持ち株会社の下にネット銀行、生保、損保会社を展開するソニー、電子マネー「スイカ」で席卷するJR東日本などのJRグループ、ネット銀行にも参入したソフトバンクやライブドアなど大手ネット企業……、金融新興勢力の攻勢も強まります。これからは資産運用市場が金融ビジネスの主戦場になります。本格化する金融大競争。顧客満足度を高めるソリューションをどこまで提供できるか。5年後、10年後の金融地図は様変わりしていることでしょう。